

当センターを受診された患者さまへ

当院では下記の研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (研究番号)	頸髄損傷者の退院先に影響する要因の検討 (医療 3-2)
当院の研究責任者 (所属)	吉村 友宏 (よしむら ともひろ) (リハビリテーション治療部 成人療法室 第二作業療法科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人社団 健育会 湘南慶育病院 リハビリテーション部 理学療法士 三枝 洋喜</li> <li>・東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科 理学療法士 寺尾 友佑</li> <li>・医療法人 沖縄徳洲会 武蔵野徳洲会病院 リハビリテーション科 理学療法士 濱嶋 敏紀</li> <li>・社会福祉法人奉優会 理学療法士 松尾 直</li> <li>・川崎市立多摩病院 リハビリテーション科 理学療法士 吉沢 和也</li> <li>・医療法人社団 苑田会 苑田第一病院 リハビリテーション部 理学療法士 林 洋暁</li> <li>・順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科 理学療法士 小山 真吾</li> <li>・順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科 言語聴覚士 鈴木 瑞恵</li> <li>・筑波大学 人間系 教授 山田 実</li> </ul>
本研究の目的	<p>脊髄損傷は、リハビリテーション施設退院時の日常生活動作の自立度は低くなる傾向を示し、介助量が多い場合、転帰先の選定が困難になる可能性が高い疾患です。脊髄損傷者の中でも特に、四肢麻痺を呈す頸髄損傷者では転帰先の選定が難しくなることがあります。また、近年の高齢化に伴い、転倒など低エネルギー外傷による頸髄損傷者が増加しており、施設入所率の増加が懸念されています。このことから、頸髄損傷者を対象とした転帰先の関連要因を検討する必要があると思われれます。先行研究では、脊髄損傷全般に関する研究が多く、頸髄損傷者の転帰先に関する要因については十分な調査がされておらず、本邦では単一施設での検討にとどまっている状況です。このようなことから、頸髄損傷者において、多施設のデータを用いて転帰先に影響する要因を明らかにする必要があると考えられます。以上のことから、本研究では、頸髄損傷者の退院先に影響する要因を多施設の情報をを用いて検討する事を目的としています。</p> <p>なお、本研究では、『全国脊髄損傷データベース』を使用します。</p>
調査データ 該当期間	2000年 4月 1日から 2020年 12月 31日
研究の方法 (使用する試料等)	<p>【対象の方々】 2000年 4月から 2020年 12月 31日に千葉リハビリテーションセンターから退院し『全国脊髄損傷データベース』に登録された頸髄損傷を呈した方</p> <p>【除外基準】 脳卒中の既往があった方。</p> <p>【利用する情報】 全国脊髄損傷データベースに登録された診療情報</p>
試料/情報の 他の研究機関への 提供及び提供方法	他の機関への試料・情報の提供は研究責任者のみが知りうる通し番号に置き換え個人が誰であるか判らないようにした上で提供いたします。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は 削除致します。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者様個人が特定される情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	<p>電話：043-291-1831 (千葉県千葉リハビリテーションセンター代表)</p> <p>担当者：成人療法室 第二作業療法科 吉村 友宏 (よしむら ともひろ)</p>
備考	